

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	生命システムコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみなす、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけ持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するために、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【生命システムコース】 以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学修成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学修成果(◎=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【生命システムコース】 分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し活用する技術を幅広く学ぶための教育を行う。2年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群を中心に学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4												
20012	アントレプレナーシップ論	アントレプレナーとしての物事の捉え方、考え方を理解する。アントレプレナーとして必要な挑戦的意欲や創造性、新規事業創出、ベンチャー経営について理解する。これらを理解した上で自身の将来を描き、大学における学修や研究への取り組み意欲の向上につなげる。	1				1							◎					◎
20041	アカデミックスキル	大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。ディスカッションを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。	1	1										◎					◎
20042	プレゼン・ディベート論	自ら課題を発見し調べてまとめることで、学習デザイン能力と論理的な思考力を向上させる。ディスカッションやプレゼンテーションを経験することで、話す・聞く・書くなどの日本語能力や自己表現能力を向上させる。	1		1									◎					◎
20022	生物科学概論A	生物学の分野の研究において重要な先端的な技術について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1	1										◎					
20023	生物科学概論B	バイオ工学・海洋資源の分野の研究において重要な先端的な技術について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1		1									◎					
20209	生命理工学概論A	生物学の分野での重要で先端的な研究について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1				1							◎					
20210	生命理工学概論B	バイオ工学・海洋資源の分野での重要で先端的な研究について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1				1							◎					
25001	生物多様性と進化A	本講義では、アリストテレス以来の生物多様性認識の歴史を辿り、今日の多様性認識が形成された背景を学ぶ。また、生物多様性を認識する現代的な方法論や生物多様性を創出するメカニズムを学ぶ。そして、その知識を将来の地震の専門分野に生かす方法に思いを巡らされるようになることが、本講義における学生の達成目標である。	2	1										◎		○			
25002	生化学A	生物体は様々な物質から成り、それぞれの物質が特有の機能を果たすことにより生命が維持される。本授業では、水や炭素の化学的な性質を知り、生物体を構成する分子について化学的に理解する。さらに、化学の法則に基づいて、生体内で起こる様々な反応を理解する。	2	1										◎		◎		○	
25003	生理学1A	1. 先端的な植物科学に関する専門知識を習得するための基礎として、植物の構造と機能についての基礎知識を身につける。 2. 植物科学にとどまらず、生物の構造と機能に関する普遍的な事象について、その共通性を正しく理解し、生命現象の原理を身につける。 3. 植物が示す生命現象の背景にある基本原理を、物理学や化学の基礎知識に基づいて正しく理解する。	2	1										◎		○			△
25004	生理学2A	体は、どのような組織・器官からできていることから始まり、外部環境が変わっても内部環境は一定であること、体の中では、様々な生理現象が、巧妙な仕組みの下に行われていることを概観する。脳を曲げるといふ行為一つをとっても、複数の筋肉が運動した結果、曲がるといふことを理解できる。朝、牛乳を飲んでもその水分はどこでどうなるという当たり前の事に興味をもち、授業を理解できる。	2		1									◎		◎		◎	
25005	遺伝子と情報A	遺伝子に書かれた情報は、親から子へ、子から孫へと受け継がれる生命の設計図である。生命は、その設計図をもとにRNAを合成し、最終的に機能分子であるタンパク質を合成する。生命の設計図であるゲノムはどのような言葉で書かれ、どのようなときに、どのような方法で読み取られ機能するかを理解することは、生物学の最重要課題であり、本授業の到達目標であり、かつ、学習目標である。	2		1									◎		◎		○	
25006	遺伝学A	古典遺伝学の基礎を学び、それぞれの結果がどのような実験によって明らかになったのかを理解する。古典遺伝学の背後にある分子の基盤の詳細を把握する。	2		1									◎		◎			◎
25007	基礎生化学A	・生化学の基礎分野の基本概念と技術を習熟する。 ・基礎分野の知識と技術を応用分野に活用する方策を学ぶ。 ・科学英語を習熟する	2	1										◎		△		◎	◎

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	生命システムコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけ持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あるルーレンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するために、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【生命システムコース】 以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○=学修成果 1 生命現象全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命現象を社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学修成果(◎=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れる。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【生命システムコース】 分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し活用する技術を幅広く学ぶための教育を行う。2年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群を中心に学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命現象を社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4												
25008	海洋生物学A	魚類生理学・魚類免疫学について概説したのち、魚類に特徴的なものとして自然免疫系を主体とする生体防御機構について具体的な例を挙げながら学ぶ。	2		1					○	◎								
25009	資源生物学A	基礎研究や物質・生物生産で用いられている様々な生物資源を紹介し、その生物学的特性と有用性を中心に学ぶ。また、それらが貢献している研究・産業の実例についても概説する。この科目により生物資源についての基礎知識を修得する。	2		1					◎	○	◎	○	◎				○	
25010	保全生物学A	・生物多様性や生態系を守る意義について自分の見解を述べることができる。 ・生物多様性や生態系を劣化させる主要な環境要因を挙げることができる。 ・生物多様性や生態系の保全と再生の現状と課題について習熟する。	2		1					○	△	◎		◎	◎			◎	
25011	発生生物学A	地球上には実にさまざまな動物がいる。この授業の目標の1つは、無脊椎動物の代表的な門を特徴づける基本的な体制を理解することである。もう1つの目標は、この多様性を生み出した発生過程の全体像を把握し、その共通性と多様性を理解することである。	2		1					◎	◎	◎	△	△				◎	○
25012	生物学基礎実習1	生物学は実験科学でありながらも、高校教育では生物学実験の授業は少ない。生物学基礎実習1は生物学基礎実習2とともに「実験のおもしろさ」を体感する実習授業である。生物学はその対象の多様性を反映して実験実習に重視しているが、生物学基礎実習1ではその基盤として毎回、工夫された実験を行う。微生物、植物、動物の個体レベルの実験が準備されている。この授業により生物学実験の基礎を修得することができる。	2	1						◎	◎	◎	◎	○	○				◎
25013	生物学基礎実習2	生物学は実験科学でありながらも、高校教育では生物学実験の授業は少ない。生物学基礎実習2は生物学基礎実習1とともに「実験のおもしろさ」を体感する実習授業である。生物学はその対象の多様性を反映して実験実習を特に重視しているが、生物学基礎実習1ではその基盤として毎回、工夫された実験を行う。微生物、植物、動物の個体レベルの実験が準備されている。この授業により生物学実験の基礎を修得することができる。	2		1					◎	◎	◎	◎	○	○				◎
25014	生物学実習1	海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行い、その原理と操作方法を習得する。さらに環境汚染物質の生物応答についても実習を行う。	2		1					◎	◎								
25015	生物学実習2	水棲生物を用いて、発生学的・生理学的・生化学的な実験を行う。さらに魚類胚を用いた実験を例に、遺伝子機能制御法の基礎知識・技術についても学ぶ。	2		1					◎	◎			◎					
20039	バイオデータベース演習A	1 生命情報データベースの使い方を理解する 2 DNA配列やタンパク質配列の多重配列プログラムの使い方を理解する	2	1						◎				◎					
20040	バイオデータベース演習B	DNA、遺伝子、蛋白質、そして化合物関連データベースの使い方を演習を通して理解する。	2		1					◎				◎					
20037	バイオ統計学演習A	1 確率分布、検定、相関係数について理解する。 2 生命理工学の研究における、確率分布、検定、相関係数の役割を理解する。 3 確率分布、検定、相関係数について、RやExcelを使った計算方法を習得する。	2	2						◎				◎					
20038	バイオ統計学演習B	1 回帰、分類、クラスターリングについて理解する。 2 生命理工学の研究における、回帰、分類、クラスターリングの役割を理解する。 3 回帰、分類、クラスターリングについて、RやExcelを使った計算方法を習得する。	2			2				◎				◎					
25020	バイオプロダクションA	バイオプロダクション、再生医療、がん治療、地球温暖化防止、環境浄化に関して、基礎的な知識を身につけるとともに、説明できるだけの学力を身につける。	2	1						◎				◎	◎				
25021	バイオプロダクションB	バイオプロダクション、再生医療、がん治療、地球温暖化防止、環境浄化に関して、基礎的な知識を身につけるとともに、説明できるだけの学力を身につける。	2		1					◎				◎	◎				

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	生命システムコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけ持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するために、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【生命システムコース】 以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○=学修成果 1 生命現象全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学修成果(◎=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)
--------------------	--

<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通する基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと科学に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れる。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【生命システムコース】 分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し活用する技術を幅広く学ぶための教育を行う。2年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群を中心に学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>
--	---

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
25022	有機化学A	1. 化合物の種類・構造(立体構造を含む)・命名法を学び、化学反応について広く理解する。 2. 化学的な事象を分子レベルの視点から理解し、化合物の構造や電子状態から特性(物性)を理解する。 3. カルボニル化合物の化学反応について広く理解する。	2	1			
25023	有機化学B	1. 有機化合物の多様性と反応性の違いについて理解する。 2. ハロアルカン、アルコール、エーテル、アミン類、アルケン、アルキン、芳香族化合物の化学反応について広く理解する。 3. その他化学反応について知る。	2		1		
25024	バイオ工学基礎A	1. バイオ工学や生命情報工学は、どのような原理や理論、要素技術に基づいているかを理解する。 2. バイオ工学は、どのような工業分野で実際に活用されているかを理解する。	2	1			
25025	バイオ工学基礎B	1. バイオ工学や生命情報工学は、どのような原理や理論、要素技術に基づいているかを理解する。 2. バイオ工学は、どのような工業分野で実際に活用されているかを理解する。	2		1		
20101	学域GS言語科目Ⅰ(理工系英語Ⅰ)	e-Learningを活用した本授業の学習目標を以下にまとめる。 (1) 科学技術分野の基本的な英語知識を取得する。 (2) 科学技術英語に関する英語力を向上させる。	2	1			
20102	学域GS言語科目Ⅱ(理工系英語Ⅱ)	e-Learningを活用した本授業の学習目標を以下にまとめる。 (1) 科学技術分野の基本的な英語知識を取得する。 (2) 科学技術英語に関する英語力を向上させる。	2		1		
25026	生物多様性と進化B	生物多様性と進化を最も直接的に認識する方法は、地層や化石に刻まれた情報を観察することである。本講義では、化石記録や地質学に基づいた生物の進化史を学ぶ。また、化石記録に見られる進化の生物学的意義を考える。本講義の目標は、様々な知識を活用して、古生物が持つ意義を想像できるようにすることである。	2		1		
25027	生化学B	生物体は様々な物質から成り、それぞれの物質が特有の機能を果たすことにより生命が維持される。本授業では、生命の基本単位である細胞について理解する。また、生命活動によりエネルギーがどのように変換されて伝達されるかについて理解する。	2		1		
25028	生理学1B	1. 先端的な植物科学に関する専門知識を習得するための基礎として、植物の構造と機能についての基礎知識を身につける。 2. 植物科学にとどまらず、生物の構造と機能に関する普遍的な事象について、その共通性を正しく理解し、生命現象の原理を身につける。 3. 植物が示す生命現象の背景にある基本原理、物理学や化学の基礎知識に基づいて正しく理解する。	2		1		
25029	生理学2B	生体は、どのような組織・器官からできていることから始まり、外部環境が変わっても内部環境は一定であること、体の中では、種々の生理現象が、巧妙な仕組みの下に行われていることを概説する。腕を曲げるという行為一つをとっても、複数の筋肉が運動した結果、曲がるということを理解できる。日常生活における様々な事象に疑問・興味をもち、授業を理解できる。	2			1	
25030	遺伝子と情報B	本授業の到達目標かつ学習目標は、生命の設計図である遺伝子に書かれた情報がどのように設計され、その設計図を基に、どのようにオペレーションされているかを理解し、生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。また、応用としての遺伝子操作などの問題を正しく理解する能力を身につけることである。	2			1	
25031	遺伝学B	現代遺伝学の基礎を学び、それぞれの結果がどのような実験によって明らかになったのかを理解する。最近驚異的な発展をみせているゲノム科学やフォワード遺伝学を詳細に把握することを目標とする。	2			1	
25032	細胞学	細胞内の情報伝達、細胞分裂や細胞周期の制御が、どのように行われているのか、基本的な事象を分子レベルで理解できる。多細胞生物において重要な役割を担う細胞間のコミュニケーションの分子基盤についても理解できる。	2			1	
25033	がん生物学	がんが遺伝子の病変であることを理解し、分子生物学や生化学の知識をもとに、細胞がどのようにしてがん化するのか、その分子メカニズムを説明できる。がんの悪性進展、がん細胞と周囲の環境との相互作用、がん幹細胞など、がんを多角的に捉えて理解できる。	2			1	

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	生命システムコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけ持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あるリーダーを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するために、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【生命システムコース】 以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学修成果 1 生命現象全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学修成果(○=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生き生きとした知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組みすることで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【生命システムコース】 分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し活用する技術を幅広く学ぶための教育を行う。2年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群を中心に学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組み。</p>	<p>1 生命現象全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4											
45007	細胞生理学A	生命科学の基礎研究者、またはバイオ技術者として細胞生理学に対する必要最低限の事項を理解することを学習目標とする。具体的には、細胞膜構造、細胞骨格、細胞小器官の役割、細胞小器官間のクロストーク、タンパク質の細胞内輸送および局在化などの詳細を学び、細胞内プロセスの総合的な理解に繋げる。	3	1						○	○							○
45008	細胞生理学B	生命機能を駆動する生体分子の「立体構造」と「動き」について学ぶ。加えて、生体分子が置かれる生体内の様々な環境について理解し、環境によって「立体構造」と「動き」がどのように変化するか実験解析技術についても学ぶ。	3		1					○	○							○
45009	生態学A	どのように生物の多様性は創出され維持されるかは消滅するののか、そのメカニズムを、集団遺伝学、進化生態学ゲーム理論を適用し実践的に理解、理解する。	3	1						○	○	○		△		○	○	○
45010	生態学B	行動生態学の主要テーマである血縁選択と性選択について(1)個体間の利他的協力と社会性、(2)性と性の役割に関する現象を解説し、その特徴や行動メカニズム、またその進化要因と進化プロセスについての理解と知識を深める。	3		1					○	○	○		△		○	○	○
45011	海洋生物学B	動物の系統分類について海産動物を中心に概説する。さらに神経・内分泌系を動物門で比較し、その進化と、海産動物の適応における神経・内分泌系の重要性を学習する。	3		1					○	○					○	○	
45012	海洋生物学C	アミノ酸、脂質及び糖質の特徴について身近な食品を例として用いることで、学生の理解度を高める。食品の機能性を利用した特定保健用食品の例を挙げ、食品による生体調節機構を教える。	3		1					○	○					○	○	
45013	海洋生物学D	海産魚類の養殖技術を習得するために、魚類生理に関連した講義を行う。	3			1				○	○					○	○	
45014	発生生物学C	動物の個体発生と組織の再生との間には密接な関わりがある。どちらにも未分化な細胞から分化・増殖することによって機能的な成熟細胞を作り出す過程が含まれる。この授業の目標は、脊椎動物の幹細胞発生と組織再生の分子機構を理解することである。	3	1						○	○					○	○	
45015	資源生物学B	基礎的な化学を学び、その知識を用いて、魚類の生体機能に関与するホルモンや生理活性物質の作用を理解する。	3	1						○	○					○	○	
45016	資源生物学C	石川県の水産資源に関する基礎的な講義を行い、石川県に特徴的な研究(例えば、能登海洋深層水、能登フグなど)の研究について学ぶ。	3		1					○	○					○	○	
45017	遺伝学実験	遺伝学及び数理生物学の実験的検証に用いてきた主要手法について経験し、実験方法とその結果が持つ意味を理解できることを目標とする。	3	1						○	○					○	○	
45018	生化学実験	植物色素を抽出し、分析定量する。「でんぷん」の検出により光合成を「見える化」する。植物タンパク質を抽出、精製し、実験的記録の残し方と対照実験の設定の仕方を学ぶ。これらを通して、植物の「かたち」と「くみこみ」について理解する。	3		1					○	○					○	○	△
45019	細胞学実験	現代の生命科学の基本的手法の一端に触れ、分子細胞生物学がどのような手法により発展してきたかを学ぶ。また、教科書で図式として記載されている実験方法について、実際に実験に触れ、簡単な実験を通して経験的に学ぶ。分子細胞生物学の実験的検証に用いてきた主要手法について経験し、実験方法とその結果が持つ意味を理解できる。	3		1					○	○	○				○	○	
45020	系統分類学実験	生物が持つDNAの塩基配列やアミノ酸配列の情報をを用いて分子系統樹を作成して生物の系統関係を解明し、生物の進化過程を理解する。その過程で、塩基配列の決定法や分子情報データベースの利用法を学ぶ。	3		1					○	○					○	○	
45021	発生学実験	この実験の目的は、動物の受精、初期発生、後期発生を観察することによって発生生物学の理解を深めることである。さらに移植実験をおこなって発生における細胞分化を理解することが目標である。	3	1						○	○					○	○	
45022	生物学実習3	植物は環境に応じた分布を持つ。この一般則を体得するために、標高に沿った植生変化を自身で調査する。本実習の目標は、野外調査についての、1)事前調査の方法、2)安全を確保しつつ調査する方法、3)得られたデータを正しく理解しその意義を議論する方法、を習得することである。	3		1					○	○					○	○	

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	生命システムコース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【生命システムコース】 以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学修成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学修成果(◎=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きる知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れて、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【生命システムコース】 分子や細胞から個体に至る各レベルにおいて、生命を構成する基礎理論と、それを解析し活用する技術を幅広く学ぶための教育を行う。2年次秋学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群を中心に学ぶ。より専門的な実験科目群と生物環境に関する実習科目群を通して、生命科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
45041	生命システム課題研究B	本授業は、生命システムコースカリキュラムの総決算として、マンツーマンのコーチングにより、課題研究の徹底指導を行う。各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。学生は、指導教員等から研究指導を受けながら、課題研究に取り組む。その間、研究への取り組み方や課題研究を遂行するのに必要な実験技術を修得する。生命システム課題研究A、B、C、Dを通して得られた成果を年度末に開催される「課題研究発表会」で口頭発表する。	4		3			◎	◎	◎
45042	生命システム課題研究C	本授業は、生命システムコースカリキュラムの総決算として、マンツーマンのコーチングにより、課題研究の徹底指導を行う。各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。学生は、指導教員等から研究指導を受けながら、課題研究に取り組む。その間、研究への取り組み方や課題研究を遂行するのに必要な実験技術を修得する。生命システム課題研究A、B、C、Dを通して得られた成果を年度末に開催される「課題研究発表会」で口頭発表する。	4		3			◎	◎	◎
45043	生命システム課題研究D	本授業は、生命システムコースカリキュラムの総決算として、マンツーマンのコーチングにより、課題研究の徹底指導を行う。各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。学生は、指導教員等から研究指導を受けながら、課題研究に取り組む。その間、研究への取り組み方や課題研究を遂行するのに必要な実験技術を修得する。生命システム課題研究A、B、C、Dを通して得られた成果を年度末に開催される「課題研究発表会」で口頭発表する。	4		3			◎	◎	◎